



横浜市立城郷小学校
明治33年6月創立

学校だより

めざす子ども像

令和4年6月25日
7月号

ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆



もくてき

校長 三瓶 淳

子どもたちの下校時刻と出張に出ようとした時刻が重なったため、鞆を持ちながら正門を開け、下校の様子を見守っていたところへ、低学年の子どもがやって来て「校長先生、お仕事しているみたいだね!」と一言。「え?校長先生って、いつも仕事していないように見えるのかな?」と返しながら、私は苦笑い。5月号でも私が鞆を持っていたことに関わるエピソードを書きましたが、物事の捉え方は人それぞれで面白いし、それを自然に伝え合える環境は大事にしたいと思いました。

さて、子どもたちの会話の中で『頭がいい』という言葉が聞かれます。ある小学校の5年生の子どもたちに『頭がいい』とはどういうことか尋ねてみると・・・

「勉強がよく(すごく)できる人」「成績がいい」「計算が速い」「テストで100点がとれる人」

「違う見方から思いつける人」「頭の回転が速い」「知識が豊富で、それを生かしている人」などが挙がっていました。同じように、その保護者に成績面以外に関する事で挙げてもらうと・・・

「自分で考え行動に移せる人」「自分の考えを誰が聞いても分かるような、分かりやすい言葉で伝えられる人」「周りの様子を見極めて行動できる人」「1を聞いて10わかる人」「ひらめき、思いつきを形にできる人」「自分で課題を見つけ、独自の解決策をみ出せる人」などでした。

『東大物理学者が教える「考える力」の鍛え方』という本の著者：上田正仁さんは、『頭がいい』とは「自ら考え、創造する力」があることだとし、次の3つの要素だと述べていました。

「**問題を見つける力**」(他の人は誰も疑問に感じないところ、常識だと考えられるところに問題点を見出す能力)

「**解く力**」(自ら創造した課題に取り組み、克服すべき問題点を整理・分析・分解し、答えにいたる能力)

「**あきらめない人間力**」(目に見える成績が出なくてもあきらめず、答えを見つけ出すまで粘り強く考え続ける能力)

また、現役の東大生は「頭がいいとは?」の質問に「**目的意識**の明確さ」と答えています。自分は何をするべきなのかをはっきりさせることが出来る人は、結果を出し、目的を達成でき、その場にあった絶妙な返しのできる頭がいい人という捉えです。例えば、数学の勉強をする前に「数学の勉強を今日はやろう!」と考えている状態では成績はあがらず、「問題集の〇〇ページから●●ページまでを終わらせよう。」「この分野の内容の基礎から復習しよう。」というように**目的**がはっきりしている状態になってから始めることが、結果に対して大きな差が生じるということです。

今年の夏休みも「自分チャレンジ」を行う予定です。特に今年は、**目的意識**をはっきりともたせてから始められるようにうながしていきたいと思っております。ご家庭でのご支援もお願いいたします。